



久米島から日本縦断 挑戦が地域へのエールに

久米島町の移住・定住促進事業の一環として、島ぐらしコンシェルジュ（島コン）と連携し、日本列島縦断サイクリングに挑戦したトーマス・デヨ・シサレリさんとジェイソン・カークさんから、中学校のスポーツ関連事業へ寄附金が贈られました。

お二人は4月に久米島を出発し、鹿児島県佐多岬から北海道宗谷岬までを自転車で走破。その過程でクラウドファンディングを実施し、多くの支援を集めました。

今回の寄附は、久米島への感謝と地域への恩返し思いから行われたもので、贈呈式では「久米島で暮らし、地域の皆さまに支えられてきた感謝を形にしたかった。子どもたちの活動の後押しになれば嬉しい」と語られました。



久米島紬後継者育成事業入所式

6月4日、真謝ユイマール館において令和8年度久米島紬後継者育成事業入所式が開催されました。今年度は與座泉さん、卯月あすかさんの2名が研修生として入所し、それぞれ久米島紬の技術習得と伝統産業の継承に向けた抱負を述べました。桃原秀雄町長からは激励の言葉が贈られ、研修生の今後の成長と活躍に期待を寄せました。今後1年間の研修を通して、久米島紬を支える担い手としての成長が期待されます。



安心して産み育てられる島へ ～助産師・湯本律子さんが県知事表彰を受賞～

6月4日、助産師の湯本律子さんが桃原町長へ「沖縄県看護職員功労者知事表彰」の受賞を報告しました。この表彰は、長年の献身的な活動で地域医療に貢献した人を称えるもので、県内で10名が選出されました。

湯本さんは、島外出産を余儀なくされる本町で、妊娠から産後まで母子を継続的にサポートしてきました。病院勤務のほか、新生児訪問、中高生への思春期教室などを通じ、「プレコンセプションケア」の充実にも尽力しています。さらに、令和5年には町内に助産院を開院。産後ケア事業を通じて母親の心身に寄り添うその活動は、町の子育て環境における大きな安心となっています。長年の功績に心より敬意を表します。



魅力ある観光地づくりに向けて

6月10日、久米島町観光協会より、観光地改善に関する要望書が町長へ提出されました。

観光協会では令和10年度の観光入域者数15万人達成を目標に、町内の観光地や観光施設が「安全・安心・快適」な環境として適切に維持・管理されているかを確認するため、実態調査を実施し、さまざまな意見や要望を取りまとめました。

久米島町としては、引き続き、魅力的な観光地づくりに向けて関係機関と連携しながら、観光地の環境改善に取り組んでまいります。

